

油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会（第1回）の主要意見

1. 油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会について

意見なし

2. 準備会の主な意見と対応状況について

意見なし

3. にごりの実態・にごりメカニズム案について

(1) 油ヶ淵の成り立ちについて

- ①油ヶ淵の歴史上において、塩害が発生した事があるか。

(2) 油ヶ淵の塩分状況について

- ①塩分の経時変化において、湖内の塩分濃度が高くなるのはどのような原因によるものと推定されるか。

(3) 油ヶ淵のにごりの実態・メカニズムについて

- ①濁度が低下しているのに透視度が上昇しないデータについて、SS や粒度分布を確認されたい。
- ②粒度分布を割合だけでなく、絶対量で見る必要もある。
- ③濁度の変動はシャープであるが、農作業の作業時間などの日変動によるものか。農作業によって濁度がこれ程シャープに変動するとは考えられない。
- ④継続的なにごりの原因は次の4点が考えられる。
- ・水田水路から $0.5\mu\text{m}$ 前後の非常に細かい粒径の浮遊粒子が代かき期に入ってきて、湖内に滞留すること。
 - ・強風や排水等による流れにより湖底に堆積した土砂が巻き上がること。
 - ・内部生産によってプランクトンが発生すること。
 - ・ゲートが開いて油ヶ淵から排水される時に、流入河川の河口付近に堆積した土砂が巻き上がり、湖内に流れ込むこと。
- ⑤流入河川によってゲートが開いて排水がされても濁度の上昇量が異なる。水門からの距離で、長田川の方が近いため流速が速くなること、河口付近の堆積状況に違いがあることで巻き上げ量が異なるのではないか。

- ⑥流入河川の河口付近に堆積している土砂の粒度分布がどうなっているのか。
継続的ににごりの原因となる細かい粒子がどの程度堆積しているのか。

(4) 水質浄化対策の評価方針について

- ①合併処理浄化槽人口の計画目標値は、単独浄化槽人口を減らすということ
よいか。そうであるなら、単独浄化槽人口が減少する目標とした方がわかりやすい。
- ②農地対策は進捗率が全て 100%以上となっているが、農地対策としては済んでいる
という認識でよいか。
- ③これまでの農地対策は終わっており、今後にはごり対策が必要になるかもしれな
いということよいか。
- ④下水道整備等を 100%達成したとしても COD75%値は目標値を達成しないのでは
ないか。
- ⑤下水道で削減できる COD は分解性のもので、油ヶ淵湖内の COD には難分解性の
ものがかなり含まれているのではないか。
どれくらい難分解性の COD が含まれているか調べられたい。
- ⑥その上で、COD 改善にどのような対策をするのか、または改善は困難とするのか、
今後の課題として検討が必要である。